

古稀記念の巡礼の旅。

片雲の風に誘われて、漂泊の思いやまず・・・齢七十。死支度にと、一人旅・主イエススと同行二人、古寺巡礼を試みました。が、実際には、岩佐福三さん（64）、長山登志男さん（64）、そして中学生の江口椋くん、柊くんの兄弟と五人連れ。

まずは・・・巡礼の感想ご報告！

7月10日、フランス国境の町、サン・ジャン・ピエ・ド・ポールを出発して、早速、ピレーネの山越え。

スペインの西の果て、サンチャゴ・デ・コンポステラまでの800km、ローコツ・ポンコツのこのかよわい二本足で歩き通しました。

美しくおおらかな自然の中、ギラギラの太陽の下、快い風にまかせて、ひたすら一筋の道を歩くだけ。

修道服（改良した）をまとい、無精ひげを蓄え、ことばは日本語とへんなスペイン語数語のみ。

あとは、ニコニコ顔と大きな声だけが武器！でも、同じ路を歩む老若男女の巡礼者には、なぜか私、もてましたよ。

道々、ロザリオの祈り、聖体拝領やゆるしの秘跡を授けたり・・・ヒッピー風の若者グループにはふんだんにハグ！

チョットくさかったけど、こちらも負けず劣らずの臭気を発してるから、ま、痛みわけかな。

わけもなく、一緒に呵々大笑、ふるえながら止めどもなく流れ出る若いおなごの涙をぬぐってあげたり、

そんな、霊的奉仕も、結構あったなあ。少なくとも、道中、決してタイクツしなかったとです。

案外、この世の中、一緒に汗を流してヨタヨタ歩く司祭の巡礼者って意外に少ないのよね。

現代世界に広がるカトリック教会、司祭団の縮図？

そりゃあ、ホテル付きの冷房バス・ツアーのほうがラクチンですものね。

じじいのこのわたしは、貧しいアルベルゲ（巡礼宿）原則、無料泊。せいぜい 5ユーロ（800円）。

但し、ノミ、ダニ、ナンキンムシにも歓迎を受けて、カユイカユイ愉快感を増幅。体重7kg減。体調はこれまた絶好調！

一日一回、安い食堂で格安の巡礼者メニューでタラふく食い、夜は、安酒（一本1ユーロのぶどう酒）をあおるだけ。

生計費（宿と飯）は、目標一日約1500円・・・正直、チョット、オーバーしたことも。

でも、しっかり毎日、ミサとロザリオ、そして孤独の歩行黙想。毎晩、仲間と聖母賛歌「サルヴェ・レジーナ」を

放歌高吟！

多くの人の依頼に応え、引き受けた祈りの意向を back-pack。10kgのリュックサックをわが小さな背に・・・

あたたかーく、はれやかーに歩き祈りました。しっつこく、神さま、神さまと呼びかけつつ、神さまの手の中を歩きました。

8月20日、巡礼開始から42日目に、終着地、サンチャゴ・デ・コンポステラに喜々として到着。

心は日本晴れ、でも体はヨレヨレの疲れ果て！

到着時には、思ったほどに劇的な感動、これなくござ候。

・・・人生の旅路の果て、オレの死ぬときもこんなモノかなと思いながら・・・ふたたび アレルヤを放歌高吟！

早速、サンチャゴの名物カテドラルでミサを共同司式！あの有名な大香炉に香を入れる役をおおせつかり、ハナたかだか！

道中、お金とモノには徹頭徹尾ケチを通し、心と霊は、まあ、それはそれは、ゼイタクな旅でした。まさに、無一物・無尽蔵！

全部、イエスさまのおかげ・・・まことに、ありがたく、もったいなく、かたじけない心でいっぱい！。

とくに、同行の岩佐さん、長山さん、椋くん・柊くん兄弟に感謝。

お支えいただいた皆さまに、多謝、感謝！ お祈りほんとうにありがとうございました。（8/25/2005 福岡空港 SQにて着陸）

むなかた孤老・・・鈴木忠一、CP